

結いの心

地域みんなで結ぶ大きな絆

令和6年3月号

木城町自治公民館連絡協議会

自治公民館活性化支援員 大津 新

Afterコロナ・Withコロナの一年間を振り返って

新型コロナウイルス感染症が、昨年5月に感染法上5類に移行して After コロナ、With コロナといわれる「新時代」に入り一年間が経過しようとしています。新型コロナウイルスの感染が拡大した3年間。地域での様々な催し物や伝統行事等が「中止」を余儀なくされたり、「制限」の下で実施されたりと、私たちの日常生活・社会活動は大きな打撃を受けました。反面、今まで「当たり前」と捉えられていたことを見直す機会にもなりましたが、対面での活動、お互いの顔が見えない状況は、地域の連帯意識や地域活動への積極性を低下させることになりました。今までもご紹介しておりますが、今一度この一年間を振り返り、これからの地域活動について考えてみたいと思います。

1 子ども達の地域への参加・参画に向けて

4月木城小学校・木城中学校は、義務教育9年間を一貫して取り組む「みどりの杜木城学園」に生まれ変わりました。このことにより、今まで小学校と中学校で別々に組まれていた教育目標や教育課程に一貫性をもたせた「木城ならではの教育」を学校と家庭と地域が一体となってより一層推進していくことが求められます。

(1) 木城を語る会

昨年度から7年生では、木城町の地域の実態を調査し、自分達にできることを考え、公民館長さんとの意見交換を通して実現に向けた取組を進めています。今年度は、コロナのために昨年度実施できなかった8年生の意見交換会を5月に、7年生の意見交換会を12月に実施しました。さらに今年度は、提案した内容に係る役場や地域団体の代表者と意見交換し、用水路の安全対策や地域でのごみ拾いなどを実施しました。これらの活動は、子ども達に地域の一員としての自覚や行動力・実践力を高めることに繋がっています。



(2) 地域学校協働本部との連携

地域全体で子ども達の学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指す活動が進められています。本年度は、学校の提案として「コスモス大作戦」と地域の提案として「フジバカマの移植」が展開しました。これらの活動は、子ども達に木城町を盛り上げてく機運の醸成に繋がっています。また、石河内で行われた2年生の「町たんけん」では、地区の方々に地域を案内・説明してもらい、自分達の町「木城町」についてより深く学ぶ機会に繋がっています。



2 地域での伝統行事

永年守られてきた地域での伝統行事は、コロナの感染拡大の中でも規模の縮小や様々な工夫により引き継がれてきました。今年度から新たな一歩が始まっています。

(1) 時節に応じた祭事

コロナにより役員が代表して実施していた夏祭り、秋祭りなどの地域における祭事も多くの方々が参加できるようになってきました。地域での祭事は、地域の安寧を共に願うとともに、お互いの健康・安全を確かめ合う機会となっています。

(2) 子ども達が参加する活動

比木神社での子どもみこし、中椎木の「もぐら打ち」などが実施されました。これらの活動により、地域に活気が生まれるとともに、地域で子ども達を見守る機運の醸成や地域を子供達に意識づけることにも繋がっています。



(3) 新盆供養

在南、横小路、立小路、湯屋ヶ坂、平城では、「新盆供養」が再開されました。事前練習も行われ、当日は、遠方から訪れられた親族の方もおられたとのことでした。これらの活動は、地域内の人と人、先人と今を生きる人、家族と親族との絆を保つことにも繋がっています。



3 地域での交流行事

多くの人が集まることができなかった状況から、お互いの存在を確かめ、「絆」を深めあう場面も少しずつ増えてきています。

(1) コスモスパティー

御池では、公民館周辺に咲くコスモスをテーマに、今年度初めて「コスモスパティー」が開催されました。コスモスを楽しむとともに、オカリナ・横笛・キーボードの音楽会、日赤奉仕団の皆さんの協力による防災炊出し訓練が行われました。開催の案内ポスター作成、当日の活動支援をジュニアリーダーが行ってくれました。

様々な年代の交流は、助け合いの輪の広がりにも繋がっています。



(2) コスモススケッチ大会

岩渕では、子ども達のスケッチ大会を盛り上げるため、早朝から地域の方々が、竹の食器や箸、焼肉や豚汁、おにぎりなどの食事を準備してくださいました。このような取組は、子ども達の健全育成や地域への愛着を育むことにも繋がっています。



※今回紹介させていただいた他にも、各地区で様々な取組・活動が行われています。人と人、人と地域をつなぐ活動を通して、これからも地域力を高めていきましょう！